

年末の風物詩

「サイギ、サイギ」響き渡る

年末の恒例行事である「裸参り」が崎の町地区と岩崎地区で行われました。「サイギ、サイギ」と威勢のいい掛け声を響かせた男衆が、新年の五穀豊穡や豊漁、無病息災、家内安全を祈願しました。

崎の町地区

12月17日（水）、岡崎地区から川原町地区の男衆が集まり、裸参りが行われました。男衆7人は、気温0度近い寒さの中、自分たちで作ったしめ縄を担ぎ、崎の町の集会所を出発。浜町の商店街を練り歩いた後、円覚寺へしめ縄を奉納しました。昨年はしめ縄の奉納のみを行っており、男衆が町内を練り歩くのは3年ぶりとなりました。

初めて参加したという崎の町地区の村上蓮さん（深浦中学校3年）は「足がとても冷たかった」と感想を語りました。
3年ぶりの裸参りを一目見ようと沿道には地域住民が集まり、男衆の勇壮な姿を温かく見守っていました。

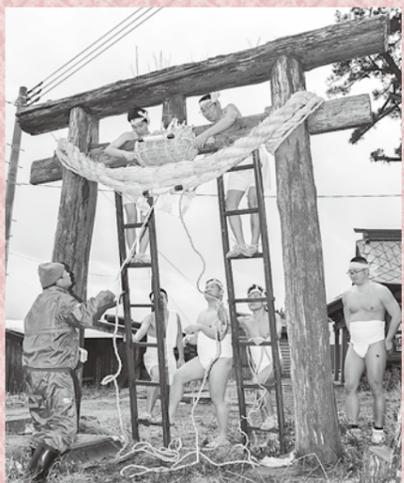


岩崎地区

12月30日（火）、岩崎地区で男衆16人が集まり、裸参りが行われました。曇り空の中、男衆がしめ縄や米俵などの奉納品を担ぎ、ふれあいと創造の館を出発。岩崎漁港の入口にある武甕槌神社の標柱まで練り歩いた後、二手に分かれて宗像神社と武甕槌神社にしめ縄などを奉納しました。奉納中に雨が降り出し、男衆は雨に打たれながら、鳥居にしめ縄を設置していました。

岩崎地区出身で東京から帰省中に裸参りに参加した岩谷武郎さんは「裸参りのために毎年帰省している。裸参りに参加しないと一年を終われない」と感想を語りました。

男衆の声が聞こえてくると、沿道に地域住民が集まり、地域に根付く伝統文化を見守っていました。



次世代の漁業発展に向けて

新しい漁業協同組合の誕生

11月13日、大間越漁業協同組合と深浦漁業協同組合の漁協合併仮契約書調印式が平沢町長立会いのもと、町民文化ホールにて開催されました。また、この漁協合併の賛否を諮るため、12月13日に両漁協で臨時総会が開催され、ともに出席組合員の3分の2以上の賛成を得て合併が承認されました。新しい漁協の名称は「深浦漁業協同組合」となります。

漁協合併は、漁協経営基盤の強化により漁協組織が恒久的に存続し、地域漁業を持続的なものとするために行われるものであり、次の世代の漁業者のためにも大きな意義を持つものです。

両漁協が現在の名称になったのは76年前の昭和24年。長い歴史の中で培ってきた漁業技術と団結力を継承しながら、新しい「深浦漁業協同組合」は、令和8年4月1日のスタートに向けて手続きを進めております。



無事仮契約書への署名を終えた平沢町長と大間越漁協川村組合長(左)と深浦漁協嶋元組合長(右)



調印式に出席した関係者のみなさん

深浦の魚を食べよう！

～お魚料理教室開催～



深浦産の魚介類の美味しさや魚に親しんでもらおうと、町内2つの中学校でお魚料理教室が12月6日（金）に開催されました。

大戸瀬中学校は、新深浦町漁協女性部が講師となって、1・2年生がイカとホタテのシーフードカレー、カワハギ、タイ、イカのフライと潮汁を作りました。

深浦中学校は、風合瀬漁協女性部が講師となって、2年生がイカ、ホタテ、エビのシーフードカレー、カワハギとホタテのフライなどを作りました。

女性部の方々の手を借りながらイカ、エビ、ホタテの下処理やカワハギ、タイの三枚おろしに挑戦。悪戦苦闘しながらも楽しく調理をしていきました。

生徒からは、「勇気を振り絞ってイカを触ったけど、うまくできて良かった」「カワハギが皮を剥ぐのも三枚おろしするのも難しかった」などの声が上がります。深浦の魚の美味しさを知るとともに、地域食材を通じて生徒同士の交流も深まった様子でした。



新深浦町漁協女性部からイカの捌き方を学ぶ(大戸瀬中学校)



風合瀬漁協女性部からカワハギの皮剥ぎを学ぶ(深浦中学校)